

自然と生き物の色々な話

～海にいる貝のグループ～

貝とその仲間という生き物たちは、大まかにグループ分けすると下のように4つに分けられます。

水中に棲む×貝殻があるグループ

アサリ、サザエ、アワビ、カワニナなど

水中に棲む×貝殻がないグループ

ウミウシ、アメフラシ、クリオネ

陸に棲む×貝殻があるグループ

カタツムリ、キセルガイ、ヤマタニシなど

陸に棲む×貝殻がないグループ

ナメクジなど

大昔、貝とその仲間はみんな、貝殻を持ち水中で暮らしていましたが、海から陸に上がったり、貝殻をなくしたりといろいろな進化をしてきました。

それぞれのグループがそれぞれ進化した結果、おいしい貝や食べられない貝、きれいな貝、ふしぎな姿の貝などグループごとにたくさんの種類の貝が生まれました。

このうち、水中に棲む貝殻のないグループには見て楽しい貝がとても多くいます。

特にウミウシは、大きさ数センチ程度のものがほとんどですが、カラフルで、目を楽しませてくれます。魚のように素早く逃げることも無いので手にとって観察することができます。

下の写真のウミウシは磯で見つけることができます。皆さんも探してみましょ。



アオウミウシ(青海牛)



アメフラシ(雨虎)

ウミウシとアメフラシは、同じグループで見た目もよく似ていますが、別の生き物です。たとえば、食べるものが違い、ウミウシは海綿やコケムシといった動物を、アメフラシはワカメなどの海藻を食べます。



日本で見られるウミウシ・アメフラシ



シロウミウシ(白海牛)

アオウミウシの次によく見られるウミウシです。
白い背中に黒い点、頭の角、体の縁が黄色いところが特徴です。背中後方にある黄色い花びらのような物はエラで、ここから酸素を吸い込んでいます。小指の半分ぐらいの大きさで、海藻が生えている浅い岩場にへばりつくようにいます。



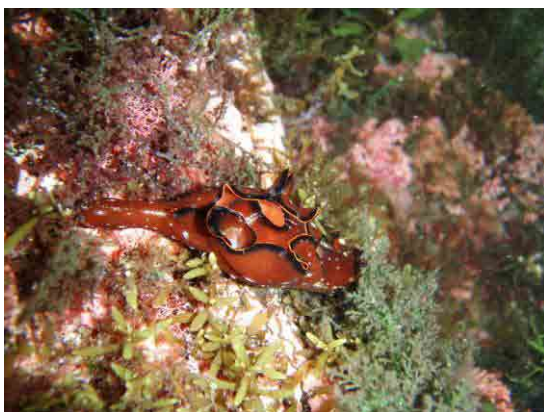
アカエラミノウミウシ(赤鰓蓑海牛)

わしゃわしゃと背中に生える突起が稲わらで編んだ蓑のように見えるウミウシです。
この突起の正体はエラで、アオウミウシやシロウミウシは花びらのようなエラですが、このアカエラミノウミウシは蓑のような赤茶けたエラをもちます。



ヤマトメリベ

ごくごく稀に見られる日本で最大のウミウシです。大きさは最大で50cmにもなります。
全身ピンク色でふよふよした手触りをしており、体から強いスイカのおいがします。
とても珍しいウミウシですので、見つけたら、水族館や新聞社に連絡してみましょう。



クロヘリアメフラシ(黒縁雨虎)

名前の通り背中のぴらぴらした部分の縁が黒くなっていることが特徴です。
磯の水面そばに生えている緑の鮮やかな海藻の付近でよく見られます。

